

E 4 - 0 6

研究報告 第 3 8 2 号

「授業力向上」に関する研究
～「授業づくりガイドブック 授業力アップ」の作成～

平成 2 2 年 3 月

千葉県総合教育センター

「授業力向上」に関する研究

～「授業づくりガイドブック 授業力アップ」の作成～

主任指導主事 富田泰宏
研究指導主事 松島 馨
研究指導主事 金田敬二
研究指導主事 田村正雄
研究指導主事 根本愛子

1 主題設定の理由

国際化・高度情報化・少子高齢化など、社会が大きく変化する中で、学力低下の問題、児童生徒の問題行動、家庭や地域の教育力低下の問題など学校を取り巻く諸問題は多様化している。このような現状から、学校教育を支える教員には、これらの問題に適切かつ柔軟に対処できる力量が求められており、教員の研修が重要視されている。また、各学校では、自校の教育の質を向上させ、家庭や地域から信頼される学校づくりを推進するために、組織的な取組と教員個々の資質能力の向上が必要不可欠であり、校内研修の充実を図らなくてはならない。

しかし、現在、学校は、経験豊富な団塊の世代の大量退職が始まり、それに伴って若い教員が増加している反面、三十歳から四十歳の教員が少ないという偏った年齢構成のため、校内研修も機能しにくくなっている状況である。

そこで、平成20年度は、今後の校内研修を推進するために、教員をチームとして組織する力、組織を実効的に運営する力、教員の力量形成を図る力などをもったリーダー的立場の教員の育成に資するため、「校内研究ガイドブック」の作成をした。これに続き、平成21年度は、より広い教員層を対象として、教員一人一人の「授業力」を向上させるために授業づくりの手引書を作成し、教員全体の力量向上に資することとした。

2 研究計画

4月 ガイドブックの方向性、内容の概略決定
5月 他県のガイドブックの調査研究により、具体的な内容の決定
6月 原稿分担
7月 原稿執筆開始
9月 1次原稿の検討・修正、原稿の書き方の確認
10月～12月 2次原稿以降の検討・修正 原稿案完成
1月末 1次校正
2月上旬～中旬 2次校正、3次校正
3月 納品

3 研究の概要

他県教育センター等発行の教師力の向上や授業力の向上に関するガイドブックや報告書を収集し、内容の調査分析を行い、「授業力」のとらえ方を明確にした。そこから、研究グループとして「授業力」の構成要素を設定し、各要素について、特に重要とされ向上が求められている内容を、さらに調査・検討をした。

これらの調査・研究を基にして、教員の「授業力向上」につながる授業づくりのための手引書の作成をした。

4 『授業づくりガイドブック 授業力アップ』について

(1) ガイドブック作成の方針及び名称

昨年度は校内研修の中の研究に焦点を当て、研究主任層を対象とした「校内研究ガイドブック 授業力アップ」を作成した。今年度は個々の教員を対象とし、教育実践の中心となる授業について取り上げ、授業づくりに資するガイドブックにする。

初任者やその指導教員が使用できるように、授業づくりの企画から評価・改善までの基本的な内容を具体的に取り上げ、考え方や作業のポイントを示すようにする。また、ベテラン教員が自己の授業力を振り返る参考書となるように、基本的な内容に対して理解を深められる解説も加える。

「授業力チェック表」を作成し、授業力の全体像を見通して授業力向上に取り組めるようにする。

使いやすさ読みやすさを考慮し、全体を20～30ページ程度にする。

名称を「授業づくりガイドブック 授業力アップ」とする。

(2) 内容及び構成

本書では、「授業力」を図1のように、「授業企画力」「授業展開力」「実態把握力」「授業改善力」の4つの力のまとまりとしてとらえ、確かな学力を育むために働くものとした。そして、これら4つの力について、図2にあるように、何をどのようにすればよいのか、内容を具体的に分かりやすく示すように努めた。

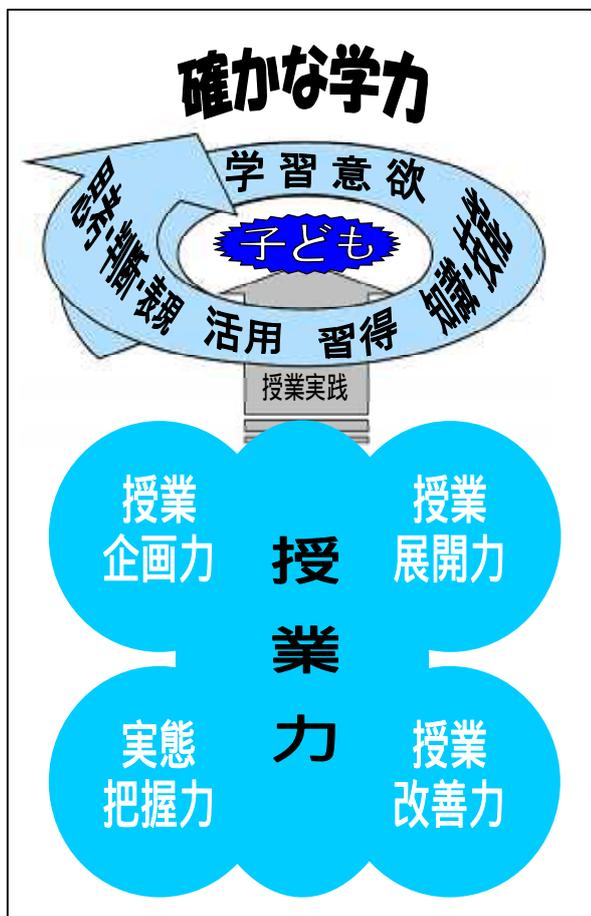


図1

| 授業企画力 P2~ | | 授業展開力 P11~ | |
|--------------------------|--|------------------------------------|--|
| 確かな学力を育てる授業を企画しよう | | 分かる・できる授業をしよう | |
| 1 育てる学力を明確にして授業構想を練ろう p2 | | 1 授業のための雰囲気作りをしよう p11 | |
| (1) 学力を保障する年間指導計画をつくらう | | (1) 児童生徒の立場に立った話し方を心がけよう | |
| (2) 習得・活用・探究の視点を重視しよう | | (2) 話しやすい雰囲気や環境をつくらう | |
| 2 単元の指導計画を考えよう p3 | | (3) 教室掲示を整えよう | |
| (1) 学習内容の系統性を分析しよう | | 2 授業展開を工夫しよう p12 | |
| (2) 単元の目標を分析しよう | | (1) 個に応じた授業を工夫しよう | |
| (3) 評価規準・基準を設定しよう | | (2) 基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図る学習を工夫しよう | |
| (4) 単元の指導計画を考えよう | | 3 授業スキルを高めよう p15 | |
| 3 指導案を書こう p7 | | (1) 発問の働きを考えよう | |
| (1) 本時の展開を考えよう | | (2) 作業指示を入れて発問をしよう | |
| (2) 日常の授業で指導案を活用しよう | | (3) 分かりやすい板書を工夫しよう | |
| 4 授業に生きる教材研究をしよう p8 | | (4) 学習の足跡が分かるノートにしよう | |
| (1) 教科書を見直そう | | (5) 授業を活性化させる指名を工夫しよう | |
| (2) 教材をつくって | | | |
| 実態把握力 P18~ | | 授業改善力 P22~ | |
| 子どもたちの姿を正しく理解しよう | | 授業を見直して改善をしよう | |
| 1 実態把握の見直しをもとう p18 | | 1 授業を見直そう p22 | |
| 2 学習前に実態を把握しよう p18 | | (1) 授業改善の流れをとらえよう | |
| 3 学習中の実態を把握しよう p20 | | (2) 協働で授業改善をしよう | |
| (1) 具体的評価規準(B基準)を基に評価しよう | | (3) 意見や感想も考察に役立てよう | |
| (2) 評価結果を児童生徒にフィードバックしよう | | 2 形成的評価で指導と評価の一体化を図ろう p24 | |
| (3) 評価結果を記録しよう | | 3 全体を振り返ろう p24 | |
| 4 学習後に実態を把握しよう p21 | | 授業力チェック表 p25 | |
| (1) 各観点をバランス良く把握しよう | | | |
| (2) 複数の評価方法を組み合わせて把握しよう | | | |

図2

内容 (例)

授業企画力 確かな学力を育てる授業を企画しよう

1 育てる学力を明確にして授業構想を練ろう

明確化された育てる学力が、年間を通して意図的・計画的に児童生徒に育まれるよう、年間指導計画等を作成し、日常の授業で具現化されるように授業構想を練る。

【授業構想のイメージ図】



(1) 学力を保障する年間指導計画をつくらう

各教科等の課題を明確にして、取り進む内容を年間指導計画に位置付けることが重要である。

【重点課題を位置付けた年間指導計画の例】

| 第 学年 科 年間指導計画 | | | | | | | |
|--|-----|----|--|------|-------------------------|--|------------------------|
| 教科目標 (1) 学習指導要領の目標、学校の教育目標を考察して書きましよう。 | | | | | | | |
| 実態調査等から、各教科等の課題を把握し、具体的な方策などを示しましよう。 | | | | | | | |
| 重点課題 自分のやり方や考えを分かりやすく書いたり説明したりする活動の充実。(言語活動の充実) 基礎的・基本的な知識・技能の定着。(繰り返し学習などの工夫) | | | | | | | |
| 月 | 単元名 | 時数 | 学習目標 | 学習内容 | 評価 | 重点課題 | |
| | | | | | | 言語活動 | 基礎的・基本的な知識・技能 |
| 1 | | 8 | | | | ～と関連付けながら説明する。 | ～が分かる。～ができる。 |
| 4 | 2 | 12 | 学習指導要領の「学年の目標と内容」や教科書等を基に、単元や時間の学習目標を書きましよう。 | | 学習目標の達成度を評価する規準を書きましよう。 | ～を言葉や図などを使いレポートにまとめる。 | ～を正しく使用できる。～をグラフ等につける。 |
| 5 | | 9 | 児童生徒や地域の実態から、何月、どの単元を、どのくらいの時数で指導することが適切かを考えて決定ましよう。年間総時数を考慮しましよう。 | | ～の根拠をあげながら話し合おう。 | ～を理解できる。 | |
| | | 6 | | | | 重点課題に応じて、手立てや内容を具体的に示し、年間を通した意図的な取組になるようしましよう。 | |
| | | 10 | | | | 教科書等を基に、目標達成のために、主となる学習内容や活動を示しましよう。 | |

3 指導案を書く

児童生徒に何をどう学ばせていくのかという意図を明確にした指導案を書くことが大切である。指導案を書くことで、授業の全体像が明確になり、意図的な指導ができるようになる。

児童生徒や教師の具体的な動きがイメージできるように書きましよう。

(1) 本時の展開を考えよう

単元の指導計画に基づき、本時の目標等を明確にした上で本時の展開を考えることが重要である。

【本時の展開例(小3 理科)】

目標 学習活動における具体的評価規準(B基準)を基に、本時の目標を設定しましよう。

目 標 強い風と弱い風を当てた時の車の動く様子を比べ、その違いをとらえることができる。風の働きについて調べたことを表などに表すことができる。

重点課題 重点課題への取組について、本時の具体的な活動内容を考えましよう。

実験の記録を事実に基づいてわかりやすく記入する。(言語活動の充実)

展 開

| 時 間 (分) | 主な学習活動 | 教師の働きかけ(), 評価(), 重点課題() | 資料 |
|---------|--|---|---|
| 5 | 1 本時のめあてをつかむ 前時で車を動かして気付いたことを発表する。 気付いたことを基に調べてみたいことを考える。 | 前時の記録を見直させる。 | ・前時の掲示物 ・ワークシートやプリント、指示資料等の準備するものを書きましよう。 |
| | 2 考える ・風が強い時ほど遠くまで走るだろう。 ・風が弱いとゆっくりと走るだろう。 ・強い風の時、帽子が飛ばされたので、車も勢いよく走るだろう。 | なぜそうなると思うのか、体験などと結び付けて考えさせる。 | |
| 15 | 3 実験をする ・軽くおされる感じがする ・3m走った | 実験の注意事項を掲示し、確認させる。 ・送風機の向き、位置をかえない ・スタートの位置は同じにする ・距離の測定は目盛りの近いほうを読む 結果は表に記録させる。 表から分かることを、事実と発見、考えたことに分けて記述させる。 書いたことを基に、グループ内で発表しあい、見直させる。 強い風と弱い風を受けたときの違いを考え、発言したり記録したりできる(発表、ノート) | ・送風機 ・重点課題での取組を位置付けましよう。 ・評価の方法を具体的に書きましよう。 |

授業展開力 わかる・できる授業をしよう

1 授業のための雰囲気づくりをしよう

教師の話し方や態度、教室環境は児童生徒の一番身近なものであり、学習意欲や態度の形成に大きな影響を与える。そのため、日常の配慮が必要である。

(1) 児童生徒の立場に立った話し方を心がけよう

定みなく、最後の言葉まではっきりと話す。
短く簡潔に、順序よく話す。
最後の行動まで分かるように話す。
具体例・具体物などを示しながら分かりやすく話す。
適切な間をとりながら話す。
豊かな表情や動作を加えて話す。
すぐに言い直したり付け加えたりしないように話す。
視線を交わし表情を読み取りながら話す。

自分自身の話し方は、客観的に聞いてみないと分からないものです。
日常の授業を録音するなどして、自分の話し方を見直しましよう。

(2) 話しやすい雰囲気や環境をつくらう

生徒指導の機能を生かす言葉や態度で発表しやすい雰囲気をつくる。
(例)「なるほど、さんはそう考えたんですね。」「よい所に気がきましたね。」「一所懸命がんばって発表しました。」「大丈夫、待ちますよ。」などの言葉・傾聴のうなずきや相づち
望ましい話し合いの態度を身に付けさせる。
(例)・人の意見は最後まで聞く。
・相手を見て話したり聞いたりする。
・相手の意見を尊重し、一方的な否定をしない。
・分からないことは積極的に質問し合う。
・建設的な態度で協力して話し合う。
学習を深めるための発表の仕方を身に付けさせる。
(例)「賛成です。わけは からです。」「ほとく意見は少し不足します。 だと思えます。わけは からです。」「さんの意見に付け足します。」「ほかにありますか。」「さんの意見について、質問があります。」

(3) 教室掲示を豊かしよう

かけ算九九の表や漢字表、観察・実験・見学の記録の仕方、レポートのまとめ方など、常に掲示して定着に役立つ資料を工夫する。
各時期の学習の流れや内容のポイントなど、授業の「見直し」や「振り返り」に役立つ資料を工夫する。
作品には、次の学習につながるよう、努力を認めたり励ましたりする言葉を添える。
(例)「 について、よく調べました。 について、もう少し調べましよう。」「 に対する自分の考えがよく書かれています。」「 について、よいところに気がきました。」
留意点
文字の大きさ・正確さ・筆順・色のコントラストに留意し、内容の配列、囲み線、傍線などを工夫して分かりやすく書く。
絵、図、表を効果的に使って分かりやすく書く。
情報量や色数を多くし過ぎない。
教室前面の掲示物や黒板に貼るものは、児童生徒によっては学習の妨げになるので十分に配慮する。

教室環境は、児童生徒の学習の集中力や態度形成に大きな影響を与えます。
黒板やその周辺、机・いすなどの配置に気を付けましよう。

実態把握力 子どもたちの姿を正しく理解しよう

1 実態把握の見直しをもとう

実態把握の時期に応じて、その目的や内容が異なる。そこで、時期に応じた把握の方法を工夫、選択し、把握したことを指導に効果的に反映できるようにする。

【時期に応じた実態把握の目的、内容、方法の例】

| 時期 | 目的 | 内 容 | 方 法 |
|-----|---------------------------|---|---|
| 学習前 | ・指導計画の作成 ・手立ての立案 | ・診断的評価 ・既習事項の定着、意欲や経験の有無等から把握 | ・診断的評価のための事前調査の実施 ・これまでの活動の様子分析 ・談話分析 ・集団と個の両面からの把握 |
| 学中 | ・目標の実現状況の把握 ・指導と評価の一体化 | ・形成的評価 ・具体的評価規準(B基準)を基にした評価 | ・形成的評価のための小テストの実施 ・表や行動の観察 ・資料の活用状況やノートの記述の観察 ・丸つけによる評価や励ましの声かけ ・演技導入の実施 ・単元や別格による確認 |
| 学習後 | ・学び方の改善 ・指導の改善 | ・総括的評価 ・観点別の評価と達成状況の把握 ・単元全体を通した児童生徒の姿の把握 | ・総括的評価のための総合問題の実施 ・レポートや作品の観察 ・口頭試問や質疑応答の実施 ・児童生徒の自己評価、相互評価の実施と整理 ・新たな課題への取組状況の観察 |

2 学習前に実態を把握しよう

単元の学習に入る前に既習事項の定着度や意欲、生活経験、重点課題とのかかわりなどについて事前調査を実施し、実態を把握する。

【学習前の実態把握の手順例(小5 算数)】

